

え、ばいさんと仲良しに暮して居るとあるのを見れば、嬉しくなり  
喜んで嬉しあまり涙があふうとしまふ。其の友達に涙を見せまいと  
はとて、~~あ~~あゝ郎下にあて行きのてゐます

守ちやん十月十四日。はう手紙を十月三日かあやん十月九日付（阿蘇神宮の所  
寄入）十月廿日手紙に見致した。重ねくに市札申上る。

何處をわたり市便りも戴き良くと安心した。また守ちやんすよあやん  
文には、市別れた時より大へん大きくなった。ました。喜んで下さい

あゝ大きくわたりませんが大きくなった。林に達者が居る。あやん  
てあられよ。今何百里とも知れぬ哀の丘の赤き夕日の下に父あやん  
は夢の白き軍人、兵隊さんで居ます。守ちやんすよあやんじふさん